



オペレーションズ・リサーチのためのデータとプログラム研究部会

1. 発足の趣旨

当部会は、森口会長の発案によって誕生し、昨年度中に数回の会合を行なったのち、本年4月に正式に発足した。部会の趣旨は、4月に作成された趣意書に次のように記されている。

オペレーションズ・リサーチの精神を体得するためには、生のデータを収集して解析する作業がきわめて重要である。しかしながら、現在の状況を見ると、手法の研究・体系化が進んでいるのにくらべて、教育に容易に利用できる形での生データの収集は、残念ながらはなはだ乏しいといわざるをえない。その結果、学校、研修機関などにおいて行なわれているオペレーションズ・リサーチの教育は、既成の手法を中心とするものが多く、とりあげられているデータも、手法の理解のために人工的につくられたものである場合が少なくなく、学生・研修生が積極的に解析する興味をそがれるうらみがある。これは、ひとつには、多方面にわたるデータの収集は、教育を担当している個人の仕事としてはあまりにもたいへんであるからだろう。そこで当部会では、各種企業、団体、研究・教育機関などの関係各位のご協力を得て、多種多様なデータを収集してデータ・ライブラリを作成し、その扱い方を研究し、オペレーションズ・リサーチの実践的教育に役だてるべく活動を開始した。具体的には、次のような作業を計画している。

- (1) オペレーションズ・リサーチに関係あるデータの収集整理。
- (2) 上記のデータを磁気テープに納める。
- (3) 典型的な解析方法および解析例の解説書をつくる。
- (4) オペレーションズ・リサーチおよび統計解析用ライブラリ・プログラムの収集整理。
- (5) 磁気テープに納めたデータから上記(4)のプログラムへの入力データを作成するためのデータ抽出・加工用プログラムの作成。

以上の作業が完了したあとで、学会を通じてその

成果を希望される方々に提供したいと考えている。

以上のような活動の趣旨をご理解のうえ、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2. 参加者

メンバーおよび随時参加していただいた方々は次のとおりである。

三浦大亮（東レ，主査）、伏見正則（東大，幹事）、小林竜一（立教大）、鹿倉尚夫（東レ）、反町洋一（三菱総研）、刀根 薫（慶応大）、長谷 彰（日科技研）、芳賀敏郎（山陽国策パルプ）、矢島敬二（日科技研）、吉沢 正（山梨大）、江副 力（電々公社）、岡本吉晴（三菱総研）

3. 活動の経過

これまでにとりあげられた問題のいくつかをあげてみると次のとおりであり、一部についてはすでに詳細な解析がなされている。

○財務諸表——数百社の過去約10年間のデータを統計的手法等を使って解析する。

○産業連関表——1973年10月に行なわれたOAP EC 諸国による石油供給制限の下で考えられた各種の方策が各産業に与える影響を解析する。

○トリムロス問題——製紙工場におけるロール紙の切断の問題を、線形計画法によって扱う。

○バランス・シート——目標計画法による分析。

○国鉄貨車運賃——非凸型コストをもつ輸送問題。

○産業連関表——大気汚染等の公害問題の解析。

このほか、いろいろなデータを候補にあけて検討中である。会員の皆様には、今後当部会からデータのご提出等のお願いをすることがあるかと思いますが、その節はご協力くださいますよう、この機会にお願いしておきます。ご協力、ご参加に関するご連絡は、下記の幹事宛にお願いいたします。

最後になりましたが、当部会の活動は、財団法人情報処理研修センターの研究補助金を受けて行なっていることを付記しておきます。

幹事：〒113 東京都文京区本郷7-3-1
 東京大学工学部 伏見正則
 Tel. 812-2111 内線3180